

2016 年度英語センター試験（筆記）

『ALL IN ONE Basic』レポート

『ALL IN ONE Basic』で単語・熟語・文法を学習した高校生がセンター試験（筆記）でどの程度の点数を取ることができるのかを、2016年度のセンター試験の設問内容を元に推測してみました。

調査対象にした設問は、単語・熟語・文法の3分野の知識がそのまま得点に結びつきやすい「第2問のA～Cと第3問のA」です。受験者にとって、この部分で、どれだけ点数を稼げるかが筆記テスト全体の成績を大きく左右します。

2頁の表は、『ALL IN ONE Basic』（「本書」と表記）の例文に含まれる単語・熟語・文法の知識で、各設問がどれだけ確実に正解できるかを示しています。

◎は「正解できる確率が100%」、○は「正解できる確率が75%」、△は「正解できる確率が50%」、×は「正確の確率が50%未満」をそれぞれ表します。そして、「配点×正解の確率」が「本書で学習した場合の推定得点」になります。例えば、第2問Aの問1は「配点」が2点、「（本書で学習した場合の）正解の確率」が◎（100%）なので「本書で学習した場合の推定得点」は「2×1」で2点になります。問10の場合は、「配点」が2点、「正解の確率」が○（75%）なので、「2×0.75」で1.5点になります。×は0点としますので、問6は0点です。

この結果、「第2問のA～Cと第3問のA」における『ALL IN ONE Basic』で学習を行った受験者の得点は**42.5点**、**得点率は81.7%**になります。この部分の設問（配点52点）の得点率が80%を超える受験者は、残りの設問（配点148点）を少なくとも60%以上は正解するはずですから、残りの設問で90点以上で、**センター試験（筆記）全体での得点は133点以上**になると推定されます。

2016年のセンター試験の受験者の平均点は115点なので、『ALL IN ONE Basic』で学習した受験生は、**受験生平均を18点以上、上回る**と考えられます。

高校1年生から2年生の間に『ALL IN ONE Basic』だけを「音声練習」を中心にしてしっかり学習すれば、3年生の春にはセンター試験の平均点以上が取れます。**高3の時点で既に入試時点の平均的な受験生のレベルに達している**わけですから、受験までの8ヶ月間は、長文問題に取り組んだり、志望校の過去問をたくさん解いたり、英語以外の受験科目の勉強に充てたりする余裕が生まれます。

		配点	本書で学習した場合の正解の確率	本書で学習した場合の推定得点
第2問A	問1	2点	◎	2点
	問2	2点	◎	2点
	問3	2点	◎	2点
	問4	2点	△	1点
	問5	2点	◎	2点
	問6	2点	×	0点
	問7	2点	◎	2点
	問8	2点	△	1点
	問9	2点	◎	2点
	問10	2点	○	1.5点
第2問B	問1	4点	◎	4点
	問2	4点	◎	4点
	問3	4点	○	3点
第2問C	問1	4点	◎	4点
	問2	4点	△	2点
	問3	4点	◎	4点
第3問A	問1	4点	○	3点
	問2	4点	○	3点
		計52点		計42.5点
				得点率 81.7%

次の3頁以降では、表の◎（正解できる確率が100%）、○（正解できる確率が75%）、△（正解できる確率が50%）、×（正確の確率が50%未満）の信憑性を証明するために、各設問の分析を行い、『ALL IN ONE Basic』の該当箇所を示します。

第2問A

問1

【正解を含む英文】（ [] 部分の太字が正解の選択肢）

The train **had already arrived** when I reached the platform, so I didn't have to wait in the cold.

【和訳】

列車は、私がホームに着いた時には、既に到着していた。だから、私は寒い中で待つ必要はなかった。

📖 問われている英語力

「過去完了形」（had + 動詞の過去分詞）の意味を正しく理解しているかを問う文法の問題です（*「文法」とは「文に関するルール」を指します）。過去完了形は「その時まで…し終えていた」という意味なので、had already arrived は「その時までに到着し終えていた」になります。そして、「その時」がいつなのかを when I reached the platform で説明しています。

📖 『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

以下は、『ALL IN ONE Basic』の Lesson 29 の例文①です：

I tried to contact him, but he **had already gone** home.
彼と連絡を取ろうとしたのですが、彼は既に帰宅していました。

この例文で過去完了形（had gone）を取り上げ、過去完了形が「その時まで…し終えていた」という意味であることを説明しています。

よって、『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問1での正解は確実です（◎）。

問2

【正解を含む英文】（ [] 部分が正解の選択肢）

Although Tokyo has a relatively small land area, it has a huge population.

【和訳】

東京は比較的狭い土地面積だが、非常に多くの人口を抱えている。

📖 問われている英語力

although と despite の使い分けができていないかを問う語法の問題です（*「語法」とは「単語に関するルール」を指します）。どちらも「～だが」という意味ですが、although が後ろに「文」ととって副詞節を作る「接続詞」であるのに対し、despite は後ろに「名詞」ととって副詞句を作る「前置詞」です。この設問は後ろに Tokyo has a relatively small land area という「文」があるので although を選びます（although Tokyo has a relatively small land area という副詞節は it has a huge population という主節を修飾）。

📖 『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

「副詞節」については、Chapter12 で詳しく説明がなされています。

また、although は、以下の Lesson 136 の例文①で取り上げられています：

Although it was not without risk, he intends to carry it out.
それにリスクがないわけではないが、彼はそれを実行するつもりだ。

そして、despite は、以下の Lesson 83 の例文②（この例文のポイントは動名詞）で「前置詞」として取り上げられています：

Despite such criticism, her books continued selling well.
そんな批判はあったが、彼女の本はよく売れ続けた。

『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問2での正解は確実です（◎）。

問3

【正解を含む英文】

Children **brought up** by bilingual parents may naturally learn two languages.

【和訳】

二カ国語を話す両親に育てられた子供は自然と二カ国語を身につけるかもしれない。

📖 問われている英語力

「過去分詞」を含む句は、形容詞句として「前」に置かれた「名詞」を修飾できる、という文法が理解できているかを問う設問です。この文では brought up by bilingual parents という過去分詞を含む句が名詞の Children を修飾しています（この文の主語は Children、述語動詞は learn です）。bring … up（…を育てる）という熟語を知っているかも問われています。

📖『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

過去分詞を含む句は形容詞句として「前」に置かれた「名詞」を修飾する、という説明は Lesson 96 でなされています。そして、問3のように主語の名詞を修飾している例文は Lesson 96 の例文②に出てきます。

Families **interested** in participating can call 582-693-104.
参加に興味のあるご家族は、582-693-104 にお電話ください。

さらに、bring ... up という熟語は問3と同様、過去分詞の形で、以下の Lesson 102 の例文①（この例文のポイントは分詞構文）で出てきます：

Born in Hong Kong, Mr. Lee was **brought up** in Australia.
Lee さんは香港で生まれ、オーストラリアで育った。

『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問3での正解は確実です (◎)。

問4

【正解を含む英文】

My sister was not a serious high school student, and [**neither was I**].

【和訳】

私の姉はまじめな高校生ではなかった。そして私も同じだった。

📖 問われている英語力

否定文を受けて「…もまたそうでなかった」と言う場合は、neither という否定語で表すことができるという単語の知識と、否定語を文頭に置く場合は倒置文（ここでは「neither + 代動詞 + 主語」）になるという文法の知識を問う設問です。

📖『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

Neither を文頭に置いた「倒置文」は、Lesson 9 の例文③で出てきます：

"Honestly I didn't like her at first." "**Neither did I.**"
「正直、最初は彼女のが好きでなかったの」「僕もだ」

但し、この例文は、問3の Neither was I. のような、代動詞が過去形の be 動詞の場合ではなく一般動詞の場合なので、『ALL IN ONE Basic』で学習していても正解を得られる確率は五分五分です (△)。

問5

【正解を含む英文】

Before the movie begins, please [**make sure**] your mobile phone is switched off.

【和訳】

映画が始まる前に、必ず、携帯電話の電源をお切りください。

📖 問われている英語力

「make sure + 文」（確実に～となるようにする）という熟語の知識を問う設問です。この文では your mobile phone is switched off (あなたの携帯電話が電源が切れている) が「文」に当たります。「switch ... off」(…の電源を切る) という熟語の知識も問われています。

📖『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

「make sure + 文」は、Lesson 128 の例文④（この例文のポイントは副詞節）で出てきます：

Before you sign it, **make sure** you read it thoroughly.
それにサインをする前に、必ず内容を隅から隅まで読んでください。

switch ... off は Lesson 83 の例文⑥(この例文のポイントは動名詞)に出てきます：

Don't forget to **switch off** your mobile phone.
携帯電話のスイッチを切るのを忘れないでください。

『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問5での正解は確実です (◎)。

問6

【正解を含む英文】

We have made good progress, so we are already [**ahead of**] schedule.

【和訳】

作業がかなりはかどったので、既に予定より早いペースだ。

📖 問われている英語力

「ahead of schedule」（予定より早く進んで）という熟語を知っているかどうかを問う設問です。make progress（前進する）という熟語を知っているかもポイントです。

📖 『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

ahead of schedule は『ALL IN ONE Basic』の例文には出てきません。make progress は以下の Lesson 65 の例文②で出てきます：

No **progress** was being **made** in the negotiations.

交渉は全く進展が見られなかった。

但し、この例文では make progress が受動態になっているので（Vocabulary 欄をきちんと見るなど）注意をして学習する必要があり、問6での正解は五分五分以下と考えられます（×）。

問7

【正解を含む英文】

Thanks to their [**friendly**] comments after my presentation, I felt very relieved.

【和訳】

プレゼン後に好意的なコメントをもらって、私はとても安堵した。

📖 問われている英語力

所有格の their と名詞 comments の間に置くことができるのは comments を修飾する「形容詞」だということ、そして、選択肢の friendly（好意的な）、nicely（良く）、properly（適切に）、warmly（暖かく）の中から「形容詞」の friendly を選ぶという語法の問題です。一般に、-ly で終わる語は「副詞」ですが、friendly は「形容詞」で、それ以外の選択肢は全て副詞です。

📖 『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

friendly は Lesson116 の例文①に「形容詞」として出てきます：

We only employ people who are **friendly** and outgoing.

うちは気さくで社交的な人しか雇いません。

この例文を通じて、friendly が「形容詞」であることが身につくので、『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問7での正解は確実です（○）。

問8

【正解を含む英文】

[**Until**] you've completed this required class, you [**won't**] be able to graduate.

【和訳】

この必須授業を履修し終えるまでは、あなたは卒業できない（ことになる）。

📖 問われている英語力

「未来」のことを表す場合、副詞節の時制をどうするかという文法的な理解と、「未来において…できない（ことになる）」は「won't be able to」で表すという表現上の知識を問う設問です。

副詞節が「未来」のことを表す場合は「接続詞＋現在形の文」にしますが、副詞節に「～し終える」という未来完了の意味合いを持たせる場合は「接続詞＋現在完了形」の形にします。

ちなみに、この設問では、Until の代わりに Unless（～しない限り）を用いることもできますが、その場合、主節は won't にして未来を表す必要があります：

[**Unless**] you've completed this required class, you [**won't**] be able to graduate.

この必須授業を履修し終えない限り、あなたは卒業ができません。

📖 『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

until と unless を用いた副詞節は、それぞれ Lesson 129 の例文③ と Lesson 134 の例文④ に出ています。

I didn't notice the difference **until** you pointed it out.

君に指摘されるまで、その違いに気づかなかつたよ。

You'll get fired **unless** you get your work done.

きちんと仕事をしない限り、（このままだと）君はクビだよ。

また、won't be able to を用いているのが、次の Lesson 154 の例文①です：

If you eat now, you **won't be able to** eat dinner.

今食べたら、夕食が食べられなくなるよ。

但し、副詞節に「～し終える」という未来完了の意味を持たせる場合は「接続詞＋現在完了形」にする、というのは『ALL IN ONE Basic』では扱っていません。よって、問8での正解が確実に得られるとは言えません（△）。

問 9

【正解を含む英文】

Wood [**used to**] be used as the main fuel, but nowadays fossil fuels [**are used**] widely.

【和訳】

木がかつては主要な燃料として使われていたが、近頃では化石燃料が広く使われている。

📖 問われている英語力

used という語を含む単純な受動態「be 動詞 + used」（使われる）と、「used to 動詞の原形」（かつては…だった）、「be used to 動名詞」（…することに慣れている）の使い分けを問う語法の設問です。また、nowadays（近頃では）が現在形の文で用いられることもポイントです。

📖 『ALL IN ONE Basic』のココに載っています！

「used to 動詞の原形」（かつては…だった）は Lesson 64 の例文⑤に出てきます：

Fred's diet **used to** be filled with fat and sugar.
かつて Fred の食生活は脂肪と糖分だらけであった。

「be used to 動名詞」（…することに慣れている）は Lesson 86 の例文⑤に出てきます：

Mr. Sato **is not used to** expressing his feelings.
Sato さんは自分の感情を表現することに慣れていない。

さらに、nowadays は Lesson 177 の例文①に「現在形」で出てきます：

Nowadays, food prices **are** getting higher and higher.
近頃、食料品の値段がどんどん上がっている。

『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問 9 の正解は確実です（◎）。

問 10

【正解を含む英文】

[**It is**] so considerate [**of**] him to come and see his grandfather in the hospital every day.

【和訳】

毎日おじいさんのお見舞いに病院に来るなんて、彼は思いやりがありますね。

📖 問われている英語力

「It is 形容詞 **for** 意味上の主語 to 不定詞」と「It is 形容詞 **of** 意味上の主語 to 不定詞」の使い分けを問う文法もしくは語法の設問です。前者は、「<意味上の主語>イコール<形容詞>」という関係が成立しませんが、後者は「<意味上の主語>イコール<形容詞>」が成立します。この設問では、「<him（彼）>イコール<思いやりがある>」という関係が成立しています。

📖 『ALL IN ONE Basic』のココに載っています！

Lesson 169 の例文⑥と⑦で「It is 形容詞 **for** 意味上の主語 to 不定詞」と「It is 形容詞 **of** 意味上の主語 to 不定詞」の違いを説明しています：

It's natural for teenagers to seek independence.
十代の若者が自立を求めるのは自然なことです。

It's very nice of you to come see me off.
見送りに来てくれて本当にありがとう。

* この例文の to 不定詞（come see ...）は問 10 の to 不定詞（to come and see ...）と類似しています。

問 10 で使われている形容詞 considerate（思いやりがある）の意味がわかっていなくても、『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問 10 での正解はかなり高い確率で得られるでしょう（○）。

第 2 問 B

問 1

【正解を含む英文】

"Good Evening, Mr. and Mrs. Gomez. How can I help you?"

"Well, [**we're wondering if you could tell**] us how to get to the theater."

【和訳】

「おはようございます、Gomez 様。何かお役に立てますでしょうか？」

「ああ、劇場への行き方を教えてもらえるかなと思ってね」

📖 問われている英語力

1 番目に、「I wonder if ~」(～かどうかと思う)という熟語の知識を問う設問です。また、この表現では「~」部分が仮定法過去(=婉曲表現)になる可能性があることもポイントです。

2 番目に、tell は第 4 文型「tell + O' + O」(O' に O を教える) でよく用いられますが、O には「疑問詞 + to 不定詞」のような名詞句を置くことができるのを知っているかが問われています。

📖 『ALL IN ONE Basic』のココに載っています！

「I wonder if ~」(～かどうかと思う) は Lesson 165 の例文⑤で出てきます。また if 節が仮定法過去になることも例文で示されています：

I wonder if I could copy your notes.

君のそのメモ、写させてもらうことができるかな。

また、tell の第 4 文型「tell + O' + O」(O' に O を教える) で O に「疑問詞 + to 不定詞」を置く形は Lesson 69 の例文④に当たります：

Tell me when and where to meet you, and I'll be there.

お会いする時間と場所を言ってもらえれば、そちらへ参ります。

このように、『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問 1 での正解は確実です(◎)。

問 2

【正解を含む英文】

"Excuse me. I'd like to know what we will be discussing in next week's seminar."

"I haven't decided yet, so **[let me send you the details by]** email."

【和訳】

「すみません。来週のセミナーでは何を議論するのかを知りたいのですが」

「まだ決めていないので、メールで詳細を送らせてください」

📖 問われている英語力

1 番目に、let はたいてい第 5 文型「let + O + 動詞の原形」(O に…させる) で用いること、さらに、しばしば「Let me 動詞の原形」(私に…させてください、私が…します) という命令文で用いることを知っているかが問われています。

2 番目に、send の第 4 文型の用法「send + O' + O」(O' に O を送る) が身につけているかが問われています。

3 番目に、by の使い方に「by + 通信手段 (email, fax, phone)」という形があり、「通信手段」の名詞が無冠詞単数形になるのを知っているかが問われています。

📖 『ALL IN ONE Basic』のココに載っています！

let の第 5 文型「let + O + 動詞の原形」(O に…させる) の例は Lesson 53 の例文④と⑤に当たります。特に、「Let me 動詞の原形」(私に…させてください、私が…しましょう) という形は 5 番目の例文と同じです：

Let me pay the bill.

私に支払わせてください。

また、send の第 4 文型の用法「send + O' + O」(O' に O を送る) は Lesson 42 の例文③に当たります：

I sent you an email by mistake.

誤って君にメールを送ってしまった。

また、「by + 通信手段 (email, fax, phone)」の表現は Lesson 165 の例文③に出できます：

I would be grateful if you would send me an estimate **by fax**.

見積書をファクスでお送り頂けるとありがたいのですが。

このように、『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問 2 での正解は確実です(◎)。

問 3

【正解を含む英文】

"How did you change after becoming the head of such a large company?"

"I **[came to realize the need to manage]** my time more efficiently."

【和訳】

「あなたは、そのような大企業のトップになってから、どのように変わりましたか？」

「私は、時間を効率良く管理する必要性を認識するようになりました」

📖 問われている英語力

1 番目に、「come to 動詞の原形」(…するようになる) という熟語の知識が問われています。

2 番目に、「他動詞 + to 不定詞」を名詞に変換すると「他動詞の名詞形 + to 不定詞」になることがわかっているかがポイントです。この問の場合、need は他動詞と名詞の両方で用いるので、「need to 不定詞」(…する必要がある) を名詞句に変

えても同じく「need to 不定詞」(…する必要(性))になります(この名詞句は realize の目的語です)。

3番目に、realize(…を認識する)と manage(…を管理する)という動詞を知っているかという単語力が問われています。

📖『ALL IN ONE Basic』のココに載っています！

「come to 不定詞」(…するようになる)という熟語は『ALL IN ONE Basic』の例文には出てきません。

「動詞 + to 不定詞」を「名詞句 + to 不定詞」に変換するという文法項目は、Lesson 75 の [Note] で扱い、以下の例文を掲載しています：

Nick made a **decision to cut** executive salaries by 20%.

Nick は役員報酬を 2 割カットする決定を下した。

そして、realize は Lesson 159 例文②で、manage は Lesson 21 の例文①で、それぞれ登場します：

Do you **realize** that you could have died?

ひょっとしたら君は死んでいたかもしれないってこと、わかってる？

How do you **manage** stress?

ストレスの管理はどのようにしていますか？

『ALL IN ONE Basic』では、「come to 動詞の原形」が掲載されていませんが、他のポイントは掲載されているので、正解を導くのに有利です (△)。

第 2 問 C

問 1

【正解を含む英文】

“How about having a campfire on the last night of summer camp?”

“It’s been very dry recently, so **[I don’t think our teachers will allow us to light a fire].**”

【和訳】

「サマーキャンプの最後の夜にキャンプファイアーをするっていうのはどう？」

「ここ最近、空気がすごく乾燥しているから、先生達が僕たちに火を使うのを許可するとは思わないんだよなあ」

📖 問われている英語力

1 番目に、allow という動詞は「allow + O + to 不定詞」(O が…するのを許可する)という形でよく用いるのを知っているかが問われています。

2 番目に、「How about 動詞の ing?」は「…するというのはどうですか?」という提案の表現を知っているかが問われています。

📖『ALL IN ONE Basic』のココに載っています！

「allow + O + to 不定詞」(O が…するのを許可する)は Lesson 50 の例文②に出てきます：

Betty only **allows** Ben **to** own wooden toys such as this one.

Betty は Ben にこのような木製の玩具しか持たせない。

また、「How about 動詞の ing?」という提案の表現は Lesson 133 の例文③に出てきます：

Since you’re here, **how about doing** some sightseeing.

せっかくこちらへいらしたのだから、観光でもなさってはいかがですか？

『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問 1 での正解は確実です (◎)。

問 2

【正解を含む英文】

“Sometimes I feel that I am not a very good musician.”

“Come on! **[No one is more talented than you.]**”

【和訳】

「時々、私は自分が大したミュージシャンではないと感じるんだ」

「おいおい、君ほど才能のある人間はいないよ」

📖 問われている英語力

「…は最も～だ。」を英語にする場合、最上級で「…+動詞+最上級」(…が最も～だ)としますが、「No + 名詞 + 動詞 + 比較級 + than + …」という形の比較級で表すこともできる、という知識が問われています。この問で最上級を用いる場合は、You are the most talented of all the people. (君は全ての人達の中で最も才能がある) と of を用いるのがポイントです。

📖『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

『ALL IN ONE Basic』の Chapter 17 で比較級は扱っていますが、「No + 名詞 + 動詞 + 比較級 + than + …」という例文はありません。「… + 動詞 + 最上級」で「of」を用いる形は Lesson 176 の例文③で取り上げています：

He is the **youngest of all** and has the least experience.

彼はみんなの中で一番年少であり、最も経験が浅い。

『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問2の正解が簡単に導き出せるとは言えませんが、in を用いて次のような誤文を作ってしまうことは避けられます：

× You are the most talented in all the other people.

この問2での正解の確率は五分五分だと考えられます (△)。

📖『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

「get + O + to 不定詞」は Lesson 53 の例文②に出てきます：

How did you **get her to** agree to this?

どのようにして彼女にこれを承諾させたのですか？

また、肯定文における anyone (いかなる人でも、誰でも) の意味は Lesson 145 の例文①で学び取ることができます：

Never mind. **Anyone** can make mistakes.

ドンマイ。誰にでもミスはあり得る。

『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問3での正解は確実です (◎)。

問3

【正解を含む英文】

"You know, Yoko, there's really nothing more I can teach our son on the piano. He plays better than I do now."

"Well, maybe we [**should get someone else to teach him**]."

【和訳】

「だからね、Yoko、僕が息子にピアノで教えることはもう何もないんだ。彼は今では僕より上手なんだから」

「そうか、じゃあ、誰か他の人に教えてもらった方がいいかもね」

📖 **問われている英語力**

1 番目に、get の第5文型「get + O + to 不定詞」(Oに…させる [してもらう])を知っているかが問われています。ちなみに、「Oに…させる」という意味の動詞に make、have、let、get がありますが、get だけが to 不定詞をとり、他は全て to のない不定詞 (= 動詞の原形) をとるということが重要な文法ポイントです。

2 番目に、肯定文における someone (誰か) と anyone (誰でも) の区別が問われています。この間で anyone を使うと「他の誰でもよいから」という無差別な意味になり、ピアノが弾けないような人までもが対象であるかのような印象を与えます。

第3問 A

問1

【正解を含む英文】

"You know, Peter's birthday is coming soon. Is everything going well for the surprise party?"

"Yes. I've already bought and wrapped his present. Here, look."

"**[You should hide it so that he won't see it.]** He might walk in any moment."

"OK. I'll put it away until the party."

【和訳】

「間もなく Peter の誕生日だけど、サプライズ・パーティーの準備は滞りなく進んでいる？」

「うん、既に彼のプレゼントを買ってギフト用に包んでもらったよ。ほら、見て」

「隠しておいた方がいいよ。彼に見つからないようにね。今にもここへ入って来るかもしれないし」

「了解。パーティーまでどこかにしまっておくよ」

☞ 問われている英語力

1 番目に、「so that ~」（～となるように）という副詞節が作れるかを問うています。この表現を否定形にする場合は、通常、「so that 主語 won't 動詞の原形」もしくは、「so that 主語 do(es)n't 動詞の原形」にします。

2 番目に、設問部分の前後の文脈、特に、後ろの He might walk in any moment. と OK. I'll put it away until the party. が正確に読み取れるかを問うています。might は過去を表すのではなく、現在や「未来」の推量を表すということ。「any moment」は「今にも」という意味、「put ... away」は「…を仕舞う、…を片付ける」という意味の熟語だということがわかっているかも問われています。

☞ 『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

「so that ~」（～となるように）という副詞節と否定形「so that 主語 won't/ doesn't 動詞の原形」の例は Lesson 133 の例文⑤と⑥で学習できます：

Label the boxes **so that** you can easily find what you need.
必要なものがすぐに見つけられるように、箱にラベルを貼ってください。

“Why do we brush our teeth?” “**So (that)** we don't get cavities.”

「歯を磨くのはなぜ？」「虫歯にならないようにするためよ」

* We brush our teeth so (that) we don't get cavities. の下線部が省略されています。

might が「未来」を表す例は Lesson 152 の例文②で指摘されています：

I **might** be a few minutes late, but I'll be there.

何分か遅れるかもしれないけど、ちゃんとそっちに行くからね。

any minute は含まれていませんが、「put ... away」は Lesson 39 の例文②に含まれています：

Just hand them to me, and I'll **put** them **away**.

ただ手渡してくれれば、僕が片付けていくよ。

このように、『ALL IN ONE Basic』で学習していれば、問 1 での正解は確実です(◎)。

問 2

【正解を含む英文】

“Did you do the English homework? It was difficult, wasn't it?”

“Oh! I totally forgot about it.”

“You can do it during lunch time.”

“There's little point in even trying. [**It'd be a waste of time.**”]

“Don't give up. You need to pass English, right?”

【和訳】

「英語の宿題やったかい？ 難しかっただろ？」

「あっ！完全に忘れてた」

「昼休みにやれば大丈夫さ」

「そんなことしても意味ない。時間の無駄だ」

「あきらめるなよ。英語、パスしなきゃ、そうだろ？」

☞ 問われている英語力

would が「～だろう（に）」という「未来」の想像を表すのを理解しているかが問われています。また、日常会話では、助動詞は短縮形（'d）で言うのが一般的だということも知っている必要があります。It'd be a waste of time. は「それは時間の無駄であろう」という意味です。もちろん、この前の文「There's little point in even trying.」の little point が「ほとんど意味のないこと」という意味で全体として「たとえ頑張っても意味のないことだ」という意味だということ、また、また、次の文「Don't give up.」が「あきらめるな」という意味であることも、理解できている必要があります。

☞ 『ALL IN ONE Basic』のここに載っています！

would が「未来」の想像を表す例は Lesson 155 の例文④と⑤が取り上げています：

What **would** be a good anniversary present for Betty?

Betty への記念日の贈り物は何がいいだろうか？

There's no use talking to Joe—he **wouldn't** listen.

Joe と話をしたって無駄よ。耳を貸さないだろうから。

また、日常会話では、助動詞は短縮形（'d）で言うのが一般的だということは、Lesson 139（P330）で解説され、助動詞の短縮形の一覧表が掲載されています。この問では、little point の意味が少しわかりづらいのですが、Don't give up. の意味は想像がつくでしょうから、『ALL IN ONE Basic』で would の意味をきちんと学んでいれば、問 2 で正解を得られるのはほぼ確実です（○）。